

## 認知症の漢方療法（一九八五年～）

私が認知症をなんとか少しでも良くしたいと考えた頃は、認知症は治らない、だから、治療はしないと世界中の医者は考えていましたから、もちろん、薬はひとつもありませんでした。

私は、漢方薬の中に、認知症を少しでも良くするものはないか探したいと考えました。

その理由は、当時の高齢者は、子供の頃病気になると煎じ薬を飲まされた経験があるためか、西洋薬は拒否しても、漢方薬なら喜んで飲まれる人が多かったことが第一。

次に、漢方薬は、証に随って投薬すれば、副作用は殆どでない上に、漢方薬は、年をとって弱くなった免疫力を賦活して、感染症を防ぐ効果を持っているものが多かったからです。

### 1. アルツハイマー病の漢方療法

アルツハイマー病の発症には、多くの要因が関与しますが、それらの中、遺伝的素因には、漢方の薬効は全く期待できませんから、それ以外の脳虚血、酸化ストレス、炎症反応、免疫反応と女性ホルモン欠乏などの発症要因に有効な生薬を、先ず、調べました。

#### イ) 脳循環改善作用の生薬

チョウトウコウ、ニンジン、トオキ、オウゴン、サンシシ、センキュウなど

#### ロ) 抗酸化作用の生薬

ケイヒ、シャクヤク、ボタンピ、カンゾウ、チンピ、サイコ、ゴミシなど。

#### ハ) 抗補体活性作用の生薬

ニンジン、トウキ、ケイヒ、ブクリョウ、センキウ、ソウジュツなど。

#### 2) 性ホルモン賦活の生薬

ニンジン、トウキ、ボタンピ、センキュウ、トウニンなど。

脳循環改善、抗酸化、抗補体、性ホルモン賦活の生薬すべてを含む漢方方剤のアルツハイマー病への効果を試す治験を行いました。有効と認められたものは、以下の通りです。

#### イ) 当帰芍薬散

(証) 虚証、初期の初老期アルツハイマー病

(薬効) 長期記憶を改善

#### ロ) 釣藤散

(証) 中間証、初期の老年期アルツハイマー病

(薬効) 短期記憶、徘徊多動、睡眠障害、幻覚を改善。

ハ) 人參養榮湯

(証) 虚証、老年期アルツハイマー病

(薬効) 易怒性、記憶、書字能力を改善。

## 2. 血管性認知症の漢方療法

血管性認知症を起こしやすくする要因は、高血圧、糖尿病、心房細動、高脂血症、タバコ、アルコール乱用などです。

これらの要因に有効な生薬は、

イ) 降圧作用の生薬

チョウトウコウ、オウゴン、オウレン、オウバク、コウカ、トウキなど。

ロ) 血糖低下作用の生薬

ニンジン、ブクリョウ、マシニン、ジオウ、サンシュユ、ソウジュツなど。

ハ) 血液凝固抑制作用の生薬

オウゴン、オウレン、ブクリョウ、ニンジン、ガイヨウ、トウニンなど。

ニ) 血管拡張作用の生薬

チョウトウコウ、シャクヤク、ケイヒ、トウキ、ブシなど。

これらの生薬を含む漢方方剤の、血管性認知症への効果を試す治験を行ったが、有効と認められたものは、以下の通りです。

イ) 釣藤散

(証) 中間証、初期の血管性認知症

(薬効) 自発性、睡眠障害、幻覚、妄想、衣類の着脱などを改善

ロ) 黄連解毒湯

(証) 実証、初期の血管性認知症

(薬効) ストレスによる血圧上昇、興奮性、易怒性などを改善